

## 社会福祉法人下諏訪町社会福祉協議会 定款

社会福祉法人下諏訪町社会福祉協議会定款（昭和51年10月27日認可）の全部を改正する。

### 第1章 総則

#### （目的）

第1条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、下諏訪町における社会福祉事業その他の社会福祉を目的とする事業の健全な発達及び社会福祉に関する活動の活性化により、地域福祉の推進を図ることを目的とする。

（社会福祉を目的とする事業）

第2条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- （1）社会福祉を目的とする事業の企画及び実施
- （2）社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助
- （3）社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成
- （4）（1）から（3）のほか、社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業
- （5）保健医療、教育その他の社会福祉と関連する事業との連絡
- （6）共同募金事業への協力
- （7）居宅介護支援事業の経営
- （8）訪問介護等事業の経営
- （9）介護予防訪問介護事業・日常生活支援総合事業
- （10）指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業の経営
- （11）障がい福祉サービス事業の経営
- （12）生活応援センター福祉総合相談事業
- （13）福祉サービス利用援助事業
- （14）在宅介護支援センター事業
- （15）生活福祉資金貸付事業
- （16）生活応援センター事業の経営
- （17）生活支援体制整備事業の経営
- （18）認知症地域支援等推進事業の経営
- （19）家族介護者交流事業
- （20）福祉有償運送サービス事業
- （21）地域包括支援センター事業の経営
- （22）老人福祉センター事業の経営
- （23）その他この法人の目的達成のため必要な事業

#### （名称）

第3条 この法人は、社会福祉法人下諏訪町社会福祉協議会（以下「本会」

という。) という。

(経営の原則)

第4条 本会は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図るものとする。

2 本会は、住民や福祉関係者等とともに地域の福祉課題・生活課題の解決に取り組み、支援を必要とする者に無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

(事務所の所在地)

第5条 本会の事務所を長野県諏訪郡下諏訪町162番地4に置く。

第2章 評議員

(評議員の定数)

第6条 本会に評議員15人以上25人以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第7条 本会に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

2 評議員選任・解任委員会は、外部委員2人、職員1人の合計3人で構成する。

3 評議員選任・解任委員の選任及び解任は、理事会において行う。

4 選任候補者の推薦及び解任の提案は、別に定める規程に基づき、理事会が行う。

5 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。

6 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員の1人以上が出席し、かつ、外部委員の1人以上が賛成することを要する。

7 評議員選任・解任委員会の運営についての規程は、本会評議員選任・解任規程（平成29年規程第2号）による。

(評議員の資格)

第8条 社会福祉法第40条第4項及び第5項を遵守するとともに、本会の評議員のうちには、評議員のいずれか一人及びその親族その他特殊の関係がある者（租税特別措置法施行令第25条の17第6項第1号に規定するものをいう。以下同じ。）の合計数が、評議員総数（現在数）の3分の1を超えて含まれることにならない。

(評議員の任期)

第9条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとすることができる。

3 評議員は、第6条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第10条 評議員に対して、各年度の総額が500,000円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬として支給することができる。

### 第3章 評議員会

(構成)

第11条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

(権限)

第12条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 予算及び事業計画の承認
- (5) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録並びに事業報告の承認
- (6) 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄
- (7) 定款の変更
- (8) 規則・規約・規程の制定及び変更又は廃止
- (9) 残余財産の処分
- (10) 基本財産の処分
- (11) 社会福祉充実計画の承認
- (12) 解散
- (13) 役員等の損害賠償責任の免除
- (14) 役員等の損害賠償責任の一部免除
- (15) 吸収合併、新設合併契約の承認
- (16) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第13条 評議員会は、定時評議員会として毎年度6月に1回開催するほか、3月及び必要がある場合に開催する。

(招集)

第14条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

2 評議員は、会長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(議長)

第15条 評議員会の議長は、その都度評議員の互選とする。

(決議)

第16条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行い、可否同数のときは議長の決するところによる。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) 役員等の損害賠償責任の一部免除
- (4) 解散
- (5) 吸収合併契約の承認
- (6) その他法令で定められた事項

3 第1項及び第2項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の全員の同意をもって行わなければならない。

- (1) 役員等の損害賠償責任の免除

4 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第18条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

5 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第17条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2人は、前項の議事録に記名押印する。

#### 第4章 役員

(役員の数)

第18条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 理事6人以上14人以内
- (2) 監事2人

2 理事のうち1人を会長、2人を副会長、1人を常務理事とする。

3 前項の会長をもって社会福祉法の理事長とする。

(役員を選任)

第19条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 会長、副会長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(役員の資格)

第20条 社会福祉法第44条第6項を遵守するとともに、本会の理事のうちには、理事のいずれか一人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理事総数（現在数）の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

- 2 社会福祉法第44条第7項を遵守するとともに、本会の監事には、本会の理事（その親族その他特殊の関係がある者を含む。）及び評議員（その親族その他特殊の関係がある者を含む。）並びに本会の職員が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の関係がある者であってはならない。

(理事の職務及び権限)

第21条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、本会を代表し、その業務を執行する。
- 3 副会長は、会長を補佐する。
- 4 常務理事は、本会事務専決及び代決規程（平成26年規程第5号）において定めるところにより、業務を分担執行する。
- 5 会長及び常務理事は、毎会計年度に4月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第22条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

- 2 監事は、常時理事及び職員に対して事業の報告を求め、本会の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第23条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結のときまでとし、再任を妨げない。

- 2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとすることができる。
- 3 理事又は監事は、第18条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第24条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第25条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬等として支給することができる。

#### 第5章 顧問

(顧問の定数)

第26条 本会に顧問若干人を置くことができる。

- 2 顧問は、理事会の決議を得て会長が委嘱する。
- 3 顧問は、本会の業務について会長の諮問に答え又は意見を具申する。
- 4 顧問の任期については、役員任期に準ずる。

#### 第6章 理事会

(構成)

第27条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

第28条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては会長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) 本会の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 会長、副会長及び常務理事の選定及び解職

(招集)

第29条 理事会は、会長が招集する。

- 2 会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名した副会長が、順次に理事会を招集する。
- 3 会長、副会長に事故あるとき、又は欠けたときは、あらかじめ会長の指名した理事が、順次に理事会を招集する。

(議長)

第30条 理事会の議長は、その都度理事の互選とする。

(決議)

第31条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行い、可否同数のときは議長の決するところによる。

- 2 前項の規定にかかわらず、理事(当該事項について議決に加わることができるものに限る。)の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき(監事が当該提案について異議を述べたときを除く。)は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第32条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 議長及び出席した会長、監事並びに理事から選出された議事録署名人1人は、前項の議事録に記名押印する。

#### 第7章 会員

(会員)

第33条 本会に会員を置く。

- 2 会員は、本会の目的に賛同し、目的達成のため必要な援助を行うものとする。
- 3 会員に関する規程は、本会会員及び会費規程（昭和51年規程第1号）による。

#### 第8章 部会及び委員会

(部会及び委員会)

第34条 本会に部会又は委員会を置くことができる。

- 2 部会又は委員会は、専門的な事項について、本会の運営に参画し、あるいは会長の諮問に答え、又は意見を具申する。

#### 第9章 事務局及び職員

(事務局及び職員)

第35条 本会の事務を処理するため事務局を置く。

- 2 本会に事務局長を1人置くほか、職員若干人を置き、会長が任免する。
- 3 事務局及び職員に関する規程は、本会事務局及び職員規程（平成26年規程第4号）による。
- 4 事務局長は、本会事務専決及び代決規程（平成26年規程第5号）において定めるところにより、業務を分担執行する。

#### 第10章 資産及び会計

(資産の区分)

第36条 本会の資産は、これを分けて基本財産とその他財産の2種とする。

- 2 基本財産は、次に掲げる財産をもって構成する。
  - (1) 定期預金 100万円
- 3 その他財産は、基本財産以外の財産とする。
- 4 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第2項に掲げるため、必要な手続をとらなければならない。

(基本財産の処分)

第37条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事総数（現在数）の3分の2以上の同意及び評議員会の承認を得て、長野県知事の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、長野県知事の承認は必要としない。

- (1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
- (2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）

(資産の管理)

第38条 本会の資産は、理事会の定める方法により、会長が管理する。

2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、管理するものとする。

3 前項の規定にかかわらず、基本財産以外の資産の現金の場合については、理事会及び評議員会の決議を経て、株式に換えて保管することができる。

(事業計画及び収支予算)

第39条 本会の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに会長が作成し、理事総数(現在数)の3分の2以上の同意及び評議員会の承認を得なければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第40条 本会の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

(1) 事業報告

(2) 事業報告の附属明細書

(3) 貸借対照表

(4) 収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)

(5) 貸借対照表及び収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)の附属明細書

(6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(1) 監査報告

(2) 理事及び監事並びに評議員の名簿

(3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類

(4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第41条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第42条 本会の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める本会経理規程(平成25年規程第1号)により処理する。

(臨機の措置)

第43条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権



利の放棄をしようとするときは、理事総数（現在数）の3分の2以上の同意及び評議員会の承認を得なければならない。

（保有する株式に係る議決権の行使）

第44条 この法人が保有する株式（出資）について、その株式（出資）に係る議決権を行使する場合には、あらかじめ理事会において理事総数（現在数）の3分の2以上の承認を要する。

#### 第11章 解散

（解散）

第45条 本会は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

（残余財産の帰属）

第46条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人のうちから選出されたものに帰属する。

#### 第12章 定款の変更

（定款の変更）

第47条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、長野県知事の認可（社会福祉法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を長野県知事に届け出なければならない。

#### 第13章 公告の方法その他

（公告の方法）

第48条 本会の公告は、本会の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞、本会の機関紙に掲載して行う。

（施行細則）

第49条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

#### 附 則

本会の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理 事（会 長）	青	木	健	一
理 事	高	山	広	吉
〃	中	村	徳	巳
〃	長	崎	昭	治
〃	五	味	源	一
〃	増	沢	国	雄
〃	小	松	武	敏
〃	青	木	基	晴
〃	田	村	作	蔵
〃	植	松	喜	代子

〃 高 木 喜代夫  
〃 松 崎 清 広  
〃 田 中 豊  
〃 有 賀 育  
〃 林 政 男  
監 事 本 山 鉄 義  
〃 西 村 秀

附 則

この定款は、認可の日から施行する。

附 則

この定款は、認可の日から施行する。

附 則

この定款は、認可の日から施行する。

附 則

この定款は、認可の日から施行する。

附 則

この定款は、認可の日から施行する。

附 則

この定款は、認可の日から施行する。

附 則

この定款は、認可の日から施行する。

附 則

この定款は、認可の日から施行する。

附 則

この定款は、認可の日から施行する。

附 則

この定款は、認可の日から施行する。

附 則

この定款は、認可の日から施行する。

附 則

この定款は、認可の日から施行する。

附 則

この定款は、認可の日から施行する。

附 則

この定款は、認可の日から施行する。

附 則

この定款は、認可の日から施行する。

附 則

この定款は、認可の日から施行する。

附 則

この定款は、認可の日から施行する。

附 則

この定款は、認可の日から施行する。

沿革	昭和27年	3月11日(設立)		
	(法人設立)			
	昭和51年	10月27日(認可)	昭和51年	12月1日(登記)
	平成3年	3月30日(認可)	平成3年	4月8日(登記)
	平成6年	5月24日(認可)	平成6年	6月7日(登記)
	平成7年	12月7日(認可)	平成7年	12月21日(登記)
	平成9年	8月4日(認可)	平成9年	8月20日(登記)
	平成11年	6月8日(認可)	平成11年	6月14日(登記)
	平成12年	3月28日(認可)	平成12年	4月7日(登記)
	平成12年	10月30日(認可)	平成12年	11月14日(登記)
	平成13年	4月11日(認可)	平成13年	4月16日(登記)
	平成14年	12月18日(認可)		
	平成15年	4月17日(認可)	平成15年	4月25日(登記)
	平成17年	5月17日(認可)		
	平成18年	5月11日(認可)	平成18年	5月16日(登記)
	平成19年	6月27日(認可)	平成19年	7月12日(登記)
	平成22年	7月7日(認可)		
	平成24年	6月7日(認可)	平成24年	6月11日(登記)
	平成26年	4月15日(認可)	平成26年	4月21日(登記)
	平成29年	2月10日(認可)	平成29年	4月3日(登記)
	平成30年	5月31日(認可)	平成30年	6月6日(登記)